

155の——線の漢字と同じ漢字をふくむものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 彼はイシツな存在だ。
- ア イコクの地を訪ねる。
イ 親のイサンを分配する。
ウ 敵にホウイされる。
エ ジュンイを決める。
ア ホウゲンの研究をする。
イ お昼のホウソウが流れる。
ウ 米のホウサクを願う。
エ 事件をホウドウする。
ア 血液ケンサを受ける。
イ ケンコク記念の行事。
- 3 ケンコウに注意する。
- ウ 青少年のケンゼンな育成。
エ 貴重なタイケンをした。
ア カンキヤクが盛り上がる。
イ 昆虫にカンシンがある。
ウ カンボウ薬を飲む。
エ 良いシユウカンを身につける。
ア コンテイからくつがえす。
イ 成長のカテイを記録する。
ウ テイカから割引された商品。
エ 防災計画をテイアンする。
- 5 被害のテイドを調査する。
- ウ テイカから割引された商品。
エ 防災計画をテイアンする。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

少年は、チェスの本質を知る男をマスターと呼び、師匠として敬っていた。彼からチェスを教わるうちに腕を上げていった少年は、「チビツ子チェス大会」で優勝して商品券をもらい、祖母を喜ばせる。ある日公園で、お金を賭ける目的でチェスを指す男たちと出会った少年は、自分の商品券を差し出し、チェスの対戦を行う。少年は勝利し、男たちから受け取った現金を使って、祖母に内緒で弟と二人、お子様ランチを食べる。本文はその後、少年とマスターが対話する場面である。

「賭けチェスをやったんだね、坊や」
賭けチェスが何を意味するのか、少年は正確に理解はしていなかったが、マスターの口調からそれが好ましくないものであり、公園で酔っ払いを相手にしたあのチェスを差しているのだということは、すぐに分かった。

「はい」
少年は素直にうなずいた。
「で、勝ってお金をもらったのかい？」
「はい」

「そうか……」
マスターは無精髭に手をやり、ジョリジョリ音をさせながら、長い

美なんかじゃない。単なる金だ。つまりチェスは金を稼ぐための道具に過ぎないんだ。なりふり構わず、手っ取り早く勝つ。それだけが彼らの目的であって、盤上に美しい何かを表現しようなどとはこれっぽっちも思っていない」

ポットの縁から食卓の上に、砂糖粒がパラパラとこぼれ落ちた。
「つまりだ」

マスターは人差し指に砂糖粒を押し付けてなめ、それから視線を少年に移した。

「俺は坊やの胸を、そういう盤上で動かしてもらいたくないんだ。彼らの盤は結局、金を追い求める欲に支配されている。それは相手のキングを倒したいという欲とは、全然種類が違うものなんだよ。いつか話しただらう？ チェスは二人で指すものだ、敵と自分、二人で奏でるものだって。だからいくら坊やの手が澄んでいたって、相手の音が濁っていたら台無しだ。そんなチェスをする坊やを俺は見たくない。坊やなら誰もがはっとして息を呑むようなチェスが指せる。盤上に、いや盤下に詩が刻める。それが俺にはよく分かっているから、だから賭けチェスなんか坊やには……」

「分かったよ」

我慢できずに少年はマスターの胸に飛び込んだ。

「もうしないよ。あんなチェスは二度としない。ごめんなさい。マスターをがっかりさせるつもりなんてなかったのに、どうしてこんな馬鹿な真似をしてしまったのか……。ごめんなさい。本当にごめんなさい。僕はもうしょうもない馬鹿だよ」

少年はマスターのシャツに顔を押し付け、声を上げて泣いた。砂埃

ため息をついた。怒っている気配はなかった。むしろ思案に暮れ、弱り果てているように見えた。その様子がいつそう少年を辛い気持ちにさせた。公園で男たちに商品券を差し出し、チェスの勝負をして以降、弟とお子様ランチを食べてもなお消えずに淀み続けているどんよりとした後ろめたさが、いよいよ気持ち悪く膨らんで少年の胸を押し潰そうとしていた。と同時にどうしてマスターが公園での出来事を知っているのか、やっぱり弟から漏れたのか、その理由についての想像が頭を駆け巡っていた。こっそり仕掛けたつもりの手がやすやすと見破られ、たちまちチェックメイトされたかのような、惨めな負け方をした気分だった。

マスターは頭をかき、ベルトを引っ張り上げ、食卓に指先で何かわけの分らない模様を書いた。シャツの襟からはみ出した首の肉をつまみ、シユガーポットの中のスプーンをかき回した。そうやって思いつく限りの仕草を一通りやったあと、ようやく口を開いた。

「俺は坊やがチェスでお金を稼いだことを怒っているんじゃない」
視線はシユガーポットに注がれたままだった。

「例えばグランドマスターたちは、素晴らしいチェスを指して、そのご褒美をもらう。それは当然のことだ。盤上に映し出される絵、浮かび上がる詩、響き渡る音に観客は皆拍手喝采を送り、自分たちの感動の何分の一かでも形にしてプレゼントしたいと願う。それがお金だ。分かるかい？」

「うん、分かるよ」

少年の声は震えていた。マスターは砂糖をかき回し続けた。

「でも、公園にいる彼らがやり取りしているお金は、チェスへのご褒

でざらざらしていたお札の感触を消そうとするように両手を握り締め、唇を無理矢理引き剥がされた時よりもっと大きな口を開けて泣いた。ずっと胸を塞いでいたものが全部涙になって、後から後からこぼれ落ちてきた。

「坊やは馬鹿なんかじゃあるもんか」

マスターは少年の背中に両腕を回した。

「いいや、違う。馬鹿だ。最低の馬鹿だ。せつかくマスターが教えてくれたチェスなのに……よく考えもせず……いい気になって……せつかくの一等賞……おばあちゃんがあんなに喜んでくれた一等賞を……おばあちゃんに内緒で使うなんて……しかも目茶苦茶なチェスで……無理矢理酔っ払いからひったくるみたいにして……ごめんなさい、マスター。ごめんなさい、おばあちゃん。ごめんなさい」

ひどくしゃくり上げ、言葉は途切れ途切れにしか出てこなかった。最後、ごめんなさいと言ったあと、少年は一段と激しく泣きじゃくり、涙と鼻水でマスターのシャツを濡らした。背中を撫でながら何度もマスターは、「いいんだよ。謝らなくてもいいんだよ」と繰り返したが、その口調の優しさがいつそう少年を悲しくさせ、涙をあふれさせた。

「で、お金は何に使ったんだい？」

小さな子供に話し掛けるように、マスターは少年の耳元に顔を寄せた。

「お子様……ランチ……デパートの……弟と……一緒……」

「おお、そうか。それはよかった。弟も喜んだだろう？ よかった、よかった」

胸もわき腹も下腹も太ももも、マスターの身体は全部が柔らかに温

かかった。少年が全身の力を預けても、何の苦もなくゆったりと受け止めるだけの余裕があった。少年は目を閉じた。その柔らかさと温もりの奥には果てがなかった。

まるでチェスの海に沈んでいるみたいだ。

と、少年は思った。窓の向こうには夕闇が迫ろうとしていた。少年はいつまでもマスターと一緒にこうしていたいと願った。閉じた目からはまだ涙があふれていた。

（小川洋子『猫を抱いて象と泳ぐ』文藝春秋社より）

※1 チェス：二人で行うボードゲームの一種で、将棋のようなものの。駒を動かして敵のキングを追い詰めるゲーム。

※2 チェックメイト：チェスにおいて、敵のキングが絶対に逃げられないように追い詰めること。

※3 グランドマスター：チェスにおける称号で、最高位をあらわす。

問一 —— 線1「そうか……」とありますが、ここから読み取れる

マスターの心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア マスターは、少年が賭けチェスをしたことを素直に認めたので、許してしまおうかと思いついて始めている。

イ マスターは、少年が賭けチェスでお金を稼いだことを、どの程度叱つたらよいものかと苦悩している。

ウ マスターは、少年が賭けチェスをするような男たちと交流を持ったことを問題視し、解決策を考えている。

エ マスターは、少年にとって賭けチェスは好ましくないものであると伝えたいが、どう話したらよいのか考えている。

問二 —— 線2「マスターは（ ）き回した」とありますが、このときのマスターの心情をわかりやすく説明しなさい。

問三 —— 線3「少年の声は震えていた」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分のことを真剣に考えてくれるマスターの愛情のこもった言葉に感動しているから。

イ 厳しく叱られたと感じ、恐怖心を覚えながらも、マスターと向き合っている決意しているから。

ウ 賭けチェスをしてからずっと心に引つかかっているやましさに向き合わねばなくなるから。

エ 穏やかで優しい普段のマスターとは違う険しい様子に、驚きを隠せずにいるから。

問四 —— 線4「ボットの（ ）れ落ちた」とありますが、この表現

について述べたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 少年が自分の言葉をなかなか理解せず、マスターはいよいよ自分の怒りがおさえられなくなっていることを、ボットの縁から砂糖がこぼれることで暗示している。

イ 少年のしたことがささいなことに過ぎず、取るに足りないということを、砂糖の小さな粒が広い食卓にこぼれることで表現している。

ウ マスターが少年に伝えようとする言葉が核心に近づくべく、次第につむぎ出されることを、砂糖がこぼれ落ちるということに重ね合わせている。

エ チェスは美しい何かを表現するものなのに、少年のした賭けチェスは、バラバラと落ちた砂糖粒のようにまとまりのないものであることをほのめかしている。

問五 —— 線5「俺は坊やの駒を、そういう盤上で動かしてもらいたくないんだ」とありますが、マスターは「男たち」がチェスをするどのようなものとしてとらえていると考えていますか。それがわかる部分を文中からさがし、十字以内で抜き出さなさい。

問六 ――線6「詩が刻める」とありますが、その説明として最も
適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 澄んだ頭の中に次々と言葉が浮かび、想像力が膨らむので、
詩を作ることが可能になるということ。
イ 清らかな手による対戦は、相手のキングを倒したいという
欲望ですら純粹なものにしてしまうということ。
ウ テンポ良く相手との呼吸を合わせてチェスを進めるのが、
一人前の勝負をすることだということ。
エ 見る者を感動させ、対戦する者同士の純粹な内面性が読み
取れるようなチェスを指すということ。

問七 ――線7「いいんだよ。謝らなくてもいいんだよ」とありま
すが、そのようにマスターが言った理由として最も適当なものを
次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 少年が悪いことをして、自分に迷惑をかけたことを十分に
反省する様子が見られたので、納得したから。
イ お金のためのチェスを指す男と勝負をしたが、少年はチェ
スの素晴らしさを本当は知っているとわかっているから。
ウ これだけ心を込めて話をしたにもかかわらず、少年はもう
自分の真意を理解してくれないだろうと感じたから。
エ 少年が賭けチェスで手に入れた金の使い道が気になってい
たので、そのことを問いたですほうが先だと考えたから。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

話し手と聞き手の間が「関係の空気」で満たされるとき、日本語は
高い伝達能力を発揮する。

「うーむ、というわけか」
「そういうことだ」

文字にすると間が抜けてしまうし、そもそも何を言っているのか意
味不明だ。だが、中年男の二人連れが評判のラーメン屋でカウンター
に座っているとしたらどうだろう。いかにもありそうな会話ではない
だろうか。伊丹十三監督の映画『タンポポ』^{※1}のおかげで世界中で有名
になったように、このラーメン屋のカウンターという空間は、その空
間自体が沈黙を迫ってくる不思議な場所のようだ。

だが、こんな暗号めいた会話を可能にしている空気というのは、ラー
メン屋という環境ではない。そうではなくて、会話をしている二人の
「関係の空気」に他ならない。

さて、この「うーむ」という会話の解釈を試みるとすれば、どうな
るだろうか。

まず妥当な解釈^{だとう}としては、
「うーむ、なるほど評判の店の味は大したものだ。こういう美味しさ
だったというわけか」
というところではないだろうか。だが、百パーセントこの内容とは
限らない。

問八 ――線8「まるでチェスの海に沈んでいるみたいだ」とあり
ますが、ここでの少年の心情の説明として最も適当なものを次の
中から選び、記号で答えなさい。

- ア マスターの身体に包まれ、穏やかな波のように落ち着いた
気持ちを抱くことで、自分の犯してしまった罪を改めてこ
うと感じている。
イ マスターの果てしない優しさを感じながらも、賭けチェス
に手を染めてしまったことで、海のような奥深い闇の世界に
落ちていくことをひそかに感じている。
ウ マスターの包容力やふところの深さ、そのマスターの指す
チェスの世界の奥深さを感じ、心につかえていたものが和ら
いでいくことを感じている。
エ 賭けチェスをしたことを許してもらえないと思っていたが、
マスターが望むチェスの世界に、自分が受け入れられていく
ことを実感し、喜びを感じている。

「うーむ、

W

というように全く逆の可能性もゼロではない。

もしかすると、この二人、ラーメン業界の人間で、名店の味をスパ
イに来ていたのかもしれない。だとすれば、

「うーむ、

X

という意味かもしれない。これに加えて、二人がラーメンに箸^{はし}をつ
ける前に具体的な会話、例えばこの店はスーパの味を変えたらしい、
というようなことを話し合っていたとすると事情は変わってくる。

「うーむ、

Y

そんな極めて具体的な意味であった可能性もある。この二人が借金
取りであれば、

「うーむ、

Z

という意味かもしれないし、国税^{※2}査察官なら、
「うーむ、原価は大したことないな、やっぱり利益を過少^{しんてく}申告してい
るな」

ということかもしれないのだ。

では、どうして男の二人連れは「うーむ」で始まる暗号めいた会話
をしたのだろう。

店の主人や他の客に内容を悟られたくない、つまりホンモノの暗号
なのだろうか。

そうではない。仮に商売敵^{ぎあひ}や借金取り、査察官¹であっても、暗号¹の
会話をする必然性はない。そもそも、その場では黙っていれば良いの
だから。第一、秘密を守るための暗号の会話とわかれば、店の主人に
怪しまれるだろう。

これは日本語に特徴的な省略表現である。^{※3}フルセンテンスの文章よりも省略表現の方が、表現として強い効果があるのだ。例に挙げたラーメン屋での会話の場合がその典型である。ここで暗号²を解読してみた解釈をおさらいすると、次のようになるだろう。

友人同士の場合

「このラーメンはうまい」あるいは「まずい」

商売敵の場合

「この値段でこの味なら競争力は高い」

借金取りの場合

「ここまで質を落としているのなら、夜逃げが近い」

国税査察官の場合

「容疑は固まった、早く脱税の物証を押さえてくなくては」

どうして、それぞれの場合に、男たちは正直にこう言わないのかというと、言ってしまったのは面白くないからである。内容を省略した「うーむ」という会話の方がはるかに共感性が高いからである。それぞれの思いをより正確に、強く相手に伝えるために、「うーむ」というわけか」というような、第三者には理解不能な表現を、意識的に引き、その会話を楽しんでいるのである。そして、そこには誤解の余地はない。

では、ここまで省略をしてどうして意味が伝わるのだろうか。

ここに「関係の空気」の存在がある。

この空気とは、表面的な会話には出てこないが、会話の重要な要素として話し手と聞き手の間で共有されている情報のすべてである。

先ほどのラーメン屋における会話では、恐らくは次のような情報が

共有されていると考えられる。

- ① ラーメンに関して、二人が交わってきた会話のすべて。
- ② 今回この店でラーメンを食べるに当たって、直前まで二人が交わってきた会話のすべて。
- ③ この店に入ってから、特にラーメンを食べているときの二人の動作、表情などのすべて。

この三つの要素に分類できる。この三つの要素の全体がこの場の会話を成立させている空気である。友人としてラーメン談義をずっと楽しんできたとか、国税査察官としてベアで脱税の摘発^{てきはつ}に取り組んできた、というのは①であるし、この店に期待していた（あるいは味が悪くなっていると恐れていた）とか、この店は脱税の疑惑がある、というのは②である。①は主として会話の背景にあるベシッ^{※4}クな価値観を固めるための情報であるし、②はこの会話に至るアクション^{※5}の意味付けを決定的にする情報だ。そうした流れに乗って、③が意味を持つてくる。

このラーメン屋の例で言えば、本当は「うーむ」というような会話は必要ないのかもしれない。①と②が十分に確立していて、③の動作や表情に明らかなメッセージがあれば、例えば運ばれてきたラーメンにレンゲを入れてスープの味をみた途端^{とたん}に、自分の味覚に照らして「これはうまい」と感じ、同時に二人が顔を見合わせてそこに「ポジティブ^{※6}」なものを感じたのであれば、もう言葉は必要ないとも言えよう。何も、ラーメン屋の空間を神秘化しようというのではない。ただ、

仮にこの会話の目的が「イエス、ノーに関する合意の確認」という極めてシンプルなものであれば、①から③でコミュニケーションが完結するということもありうるという事実を述べているだけだ。空気は、それだけで結論まで伝達することもある。

では、このラーメン屋の会話には意味はないのだろうか。そうではない。短い会話だが、意味はあるのだ。それはお互いが①から③の空気を共有しているという確認作業であるし、それに加えてラーメンを食べ終わって何らかの結論を得たという完結感を、その空気自体に与えるという機能である。もしも、この「うーむ」で始まる短い会話がなければ、この二人にとっても、あるいは店の主人や他の客にとっても不自然な感じが残るだろう。

日本語はあいまいである、そんな言い方をよく聞く。確かに、この「うーむ」で始まる会話は、それだけを聞いたのでは何を言っているか見当がつかないし、このように状況に応じて意味が千変万化^aであるとするれば、あいまいという非難をする人がいるのもわからないではない。

だが、この「うーむ」で始まる会話は実際はあいまいではないのだ。①から③の情報がキチンと共有されていれば、意味は正確に伝わるのであるし、あいまいさの入り込む余地はない。本人同士では、コミュニケーションとして完結しているのである。もつと言えば、このような省略表現こそが、この場にはふさわしいのであって、中味をすべて喋^{しゃべ}ってしまつては身も蓋^{ふた}もないのである。「このラーメンはうまいな。入る前に君の言っていた通りだな」「その通り。ダシの味も、麵^{めん}のゆで具合も完璧^{かんぺき}だ。言った通りだろう」

という会話と、

「うーむ、というわけか」

「そういうことだ」⁵

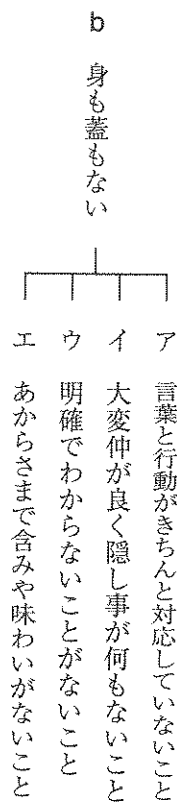
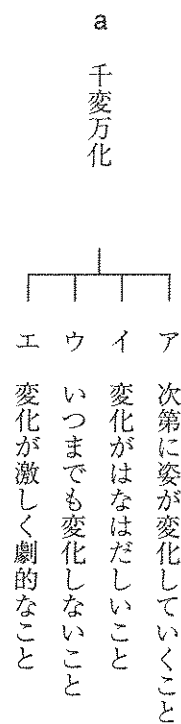
を比較してみると、前者の方が言葉の上での情報量は多い。だが、「共感性」は後者の方が高いのではないだろうか。この二人の親近感という意味でも、ラーメンがうまかったという意味でも、後者の方がコミュニケーションとして、より強い情報の交換⁵と言える。

なぜだろう。一般的に省略表現では、省略をすることで「空気を共有している」という親近感のメッセージを送りつつ、暗号解読^{※7}のカタルシスを瞬間に感じているからである。そして、表現全体に一つのスタイルがあり、そのスタイルに参加する喜びもあるからだ。

（冷泉彰彦『関係の空気』『場の空気』講談社より）

- ※1 『タンポポ』：ラーメンを題材にした映画。
- ※2 国税査察官：税金が正しく納められているかを調査する人。
- ※3 フルセンテンス：省略表現のない文全体。
- ※4 ベシッ^{※4}ク：基本的。
- ※5 アクション：行動、動作。
- ※6 ポジティブ：経験した事実によって証明されるさま。
- ※7 カタルシス：気持ちを開放し、心を軽快にすること。

問一——線 a 「千変万化」、b 「身も蓋もない」とありますが、
ここでの意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、
記号で答えなさい。



問二——

W

Z

 に入るものとして最も適当なものを次の中
からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ここまで質を落としているのか。資金繰りに窮しているか
もしれないな

イ なるほど魚のダシを加えてきたか。その割にはしつこくな
いな

ウ この値段でこの味なら売れるのは当然だ

エ 名店の味も落ちたと聞いていたが、ここまでヒドイとは

問三——線 1・2 「暗号」について、それぞれの意味の違いをわ
かりやすく説明しなさい。

問四——線 3 「空気は、それだけで結論まで伝達することもある」
とありますが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、
記号で答えなさい。

ア カウンターで出会った者同士は、動作や表情の工夫により
無言でメッセージを伝えることもあるということ。

イ ラーメン屋の独特の雰囲気は、何も言わなくても食べ終
わった時に満ち足りた気持ちにしてくれるということ。

ウ 動作や表情が積極的な意味を持つのは、二人の間にすべて
の情報が共有されたときであるということ。

エ 二人の間で情報が共有されていれば、何も言わなくても合
意が得られることもあるということ。

問五——線 4 「日本語はあいまいである」とありますが、筆者の
考える、日本語のあいまいさに関する説明として、合っているも
のには1を、合っていないものには2を、それぞれ解答欄に書き
なさい。(ただし、すべて同じ記号の場合は採点の対象外としま
す。)

ア 日本語の意味は状況に応じて変化するが、そのあいまいさ
の中で互いに結論を探り合うことが楽しみでもある。

イ 情報が共有されている者同士であれば、他人にはあいまい
に聞こえる会話でも正確な意味がきちんと伝わる。

ウ 日本語特有の省略表現は、時に会話をしている本人同士に
おいても分かりにくく、不自然な感じが残ることもある。

エ 省略表現の多い日本語の会話は、本人同士では共感度が高
いが、他人には何を言っているかわからないことがある。

問六——線 5 「前者の方」だろうか」とありますが、その説明
として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 前者は比較的具体的な言葉が多く理解しやすい言い方であ
るが、後者は本人同士にのみ分かる省略表現を使っている分、
後者の方が「共感性」が高い。

イ 前者は相手の発言にそのまま賛同してはいるが、後者はあ
いまいな内容について相手を思いやって推測で補い合おうと
している分、後者の方が「共感性」が高い。

ウ 前者はその場にはいない人にも伝わるように多くの言葉を費
やしているが、後者はその場にいれば誰でも分かることは省
略している分、後者の方が「共感性」が高い。

エ 前者は周囲を気にせず細かな点まで具体的に話しているが、
後者は他の客に分からないようあえて情報量を減らす工夫を
している分、後者の方が「共感性」が高い。

問七——線 「話し手と」発揮する」とありますが、その説明と
して最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 日本語では話し手と聞き手の間の情報交換こそが大切であ
り、会話の背後にある情報が話し手から聞き手に適切に伝え
られたとき、お互いの間で喜びが高まる。

イ 話し手と聞き手が多くを語る必要がないほど分かり合えて
いるとき、日本語の省略表現によるコミュニケーションは完
結し、高い共感性を発揮する。

ウ 日本語では話し手と聞き手の間ですべての情報が共有され
ているとき、最小限の言葉で様々な受け取り方のできる独特
な表現方法が可能となる。

エ 話し手と聞き手の間で情報の共有がなされているか否かわ
からずに使われるとき、日本語には暗号を解読するような楽
しさが感じられる。

受 験 番 号

氏 名

得 点

—

1	
2	
3	
4	
5	

—

問 一	
-----	----------------------

問 二	
-----	-------------

問 三	
問 四	

問 五	
-----	-------------

問 六	
問 七	
問 八	

—

問 一	a	
	b	

問 二	W	
	X	
	Y	
	Z	

問 三	
-----	-------------

問 四	
-----	----------------------

問 五	ア	
	イ	
	ウ	
	エ	

問 六	
問 七	